

東日本大震災発生から8年を迎えての会長声明

- 1 東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故が発生してから、8年が経過した。

被災地においては、高台での宅地造成、浸水地域の盛土工事、災害公営住宅の建設などが進み、復興に向けたインフラの整備が進みつつある。一方で、いまだに岩手県内では1301戸、2827名が応急仮設住宅（みなし仮設住宅を含む。以下同じ。）での避難生活を継続している（2019年1月31日現在）。

当会は、震災発生直後から、法律相談をはじめとする被災者の復興支援の活動を継続し現在に至っているが、できる限り被災者一人ひとりが自ら望んだ復興を実現できるよう、さらに被災者に寄り添った支援を続けていかなければならない。

- 2 当会がかねてより述べているとおり、災害からの復興は、「人間の復興」でなければならず、住宅の再建は、目指すべき復興の前提となる第一歩である。

しかし、防災集団移転促進事業や土地区画整理事業により、被災自治体が、造成した高台の宅地や土盛りして造成した宅地において、強度不足から被災者が住宅を再建するために自らの負担で補強工事した事案や、形状不良から被災者が土地を利用するために改めて土地の造成方法を検討しなくてはならなくなった事案などがこれまでに報告されている。

このような自治体により提供された土地について強度や形状に問題があり、それが原因で被災者の住宅の建設が遅れるような場合には、被災者にとっての「人間の復興」が遅れるのであるから、問題解決の負担を被災者のみに負わせるべきでなく、土地の造成をした自治体が責任をもって解決に取り組むべきである。

- 3 また、災害公営住宅に入居することによって住宅の再建を果たした被災者の中には、自治体から、世帯収入が高いことを理由に、立ち退きを求められる事案が報告されている。

災害公営住宅は、通常の公営住宅と異なり、震災により住居を失った被災者に対する住宅再建支援の一環として建設される住宅であり、被災者も、災害公営住宅が終の棲家となることを期待して入居する住宅である。このような災害公営住宅の目的等から、岩手県は、昨年度、一定以上の収入のある「収入超過世帯」の家賃増額負担の軽減策を講じたところでもある。

そのため、一度災害公営住宅に入居して住宅の再建を果たした被災者に対して、世帯収入を理由に災害公営住宅からの転出を求めることは、災害公営住宅

の目的等を没却する運用であり、容認できない。

当会は、今後も、災害公営住宅の入居要件や退去要件をはじめとする制度運用に関して、被災者の生活に寄り添い、被災者が「人間の復興」を果たせるような制度運用を実現できるよう活動を続けていく所存である。

- 4 ところで、住宅の再建は、目指すべき復興の前提となる第一歩目に過ぎないのであるから、被災者の「人間の復興」に向けた歩みには、住宅再建後も支援者が寄り添って生活再建のための支援を継続していかなければならない。

しかし、住宅の再建や社会インフラの整備が進むにつれ、住宅の再建を果たした被災者が増える一方、社会的な関心が薄れつつあり、被災者への支援の担い手が減少している。これまで、被災世帯の見守り活動や仮設住宅・災害公営住宅での定期的なイベント活動等を行い、被災者の生活に寄り添った支援活動をしてきたNPO法人やボランティア団体の中には、予算規模の縮小を余儀なくされ、次年度から活動の縮小ないし廃止を予定しているところもある。

このような被災者の生活の安全を守る活動や被災者の生活を豊かにする活動は、震災によって地域コミュニティが破壊され、地域の住民同士のつながりが薄れてしまった被災者にとって、「人間の復興」のために不可欠な活動であるとともに、新たに発生することが予想される災害に対して備えていくものでもある。そのため、「人間の復興」のためには、このような多様な団体による継続した取組が不可欠である。

当会としても、被災者の「人間の復興」への支援として、一人ひとりの個別の被災の影響を把握し、それに合わせた支援策をまとめ、各種専門家が連携して支援を実施していく「災害ケースマネジメント」の手法による被災者支援を実現するための活動をしていく所存である。具体的には、今後の災害支援のために「災害ケースマネジメント」の法制化を求めて活動していくほか、当会と他士業との連携や行政との関係づくり等に注力していく所存である。

- 5 当会は、東日本大震災から8年が経過する日を迎え、改めて東日本大震災の被災者一人ひとりが「人間の復興」を成し遂げられるよう支援活動を継続していくことを誓い、それと共に、震災からの復興事業を通して築いてきた関係機関との連携をさらに深めていくことで、将来の被災者支援活動にも努力していく所存である。

2019年(平成31年)3月11日

岩手弁護士会

会長 太田 秀 栄

